

ちっぴり



写真：上段左、下段左… 医療福祉相談 上段右、下段中央、下段右… 久留米大学病院での新型コロナワクチン接種

私たちの理念

人と地球にやさしい、^{いのち}生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

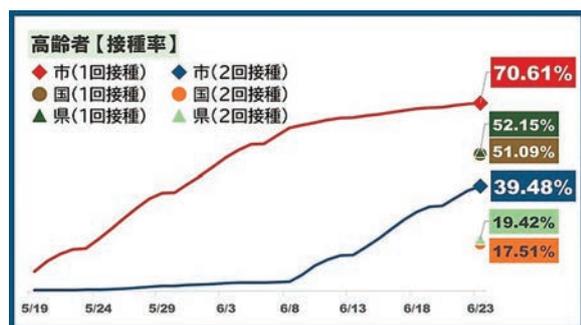
第39号 久留米大学病院 広報誌 2021.9 No.039

- 新型コロナワクチン接種の状況について
山口 圭三
- 知ってほしいセカンドオピニオンの話
副枝 恵美
- 医療福祉相談のご案内
深川千寿子
- Withコロナ ～コロナに負けないからだづくり～
茅原明日香
- 「診療費後払いサービス」
「診療待ち番号確認サービス」のご案内

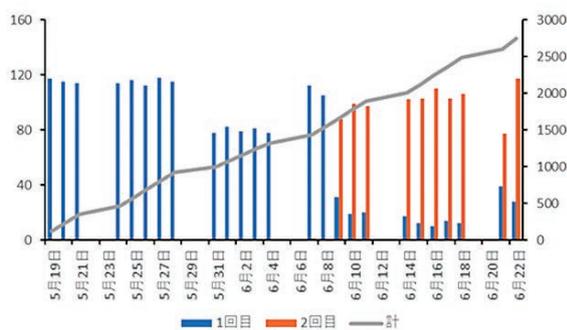
新型コロナワクチン接種の状況について

医療連携センター 山口 圭三

2021年5月19日に始まりました65歳以上の高齢者を対象とした新型コロナウイルスワクチンの接種プロジェクトの久留米市における進捗状況は、関係諸氏の協力により非常に良好です。国や県の1回目接種率がおよそ50%のところ、久留米市は70%と高率となっています（6月23日現在）。久留米大学病院でもその一翼を担っております。



久留米市高齢者接種状況（6月23日現在）



久留米大学病院高齢者接種状況（6月22日迄）

久留米市のワクチン接種率が高率である理由は主に3つ考えられます。

1. リーダーがリーダーたる良い働きをした

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種に関しては首相自ら具体的な数値目標を掲げ、官民一体となって目標達成に向けて邁進しています。実施主体である久留米市は久留米方式として4つの接種体制、1. 主要医療機関（久留米大学病院を含む）、2. 集団接種、3. かかりつけ医、4. 出張型接種を整備すると同時にコールセンター、インターネット、LINEなどを活用した円滑な予約・相談体制を構築するとしました。実際に通知される予約人数と来場者人数の差は連日5人未満と想定よりもかなり少なく、貴重なワクチンをムダにすることなく接種が可能となっています。首相、自治体首長、地域

医師会長、各医療機関の長が各々の立場でリーダーたる良い仕事をされた結果と考えます。リーダーたる良い仕事とは構成員に対し、具体的な数値目標、しかも少し背伸びをすれば到達するゴールを提示することにあると考えます。

2. 医療資源が豊富であること

全国の政令都市・中核都市（62都市）のなかで、人口10万人当たりの医師数（平成30年医師・歯科医師・薬剤師統計）は、久留米市が548人（全国平均は247人）で第1位であり全国的にみても久留米市は医療資源が非常に豊富な街です。この豊富な医療資源を背景に接種体制の構築が比較的スムーズに進んだものと考えております。立場や見方を変えればムダとも考えられる医師数ですが、今般の新型コロナウイルス感染症のパンデミックのような緊急事態下では決してムダではなく、必要なゆとりであったのでしょう。

3. 市民のヘルスリテラシーが高い

ヘルスリテラシーを簡単に言うと、「自分にあった健康情報を探して、理解し、評価した上で、使える力」と言われます。久留米市の医療資源が豊富であることを背景に、久留米市民のヘルスリテラシーは高く、接種希望者が多いことや無断キャンセルが少ないことに反映されていると推測しています。

当院での接種は効率性よりも安全性を重視したものです。複数回接種を防ぎ必要な待機時間を確保するためにキッチンタイマーを導入いたしました。時間帯によってはかなりお待たせすることがございます。ワクチンを無駄なく安全に接種するために、ご理解をよろしく申し上げます。



キッチンタイマー



接種会場～ゆったりとしたスペースを確保～



ワクチン接種用リクライニング椅子

知ってほしいセカンドオピニオンの話

がん相談支援センター 副枝 恵美

患者さん、ご家族（以下相談者）から「セカンドオピニオンを受けたい」という相談を受け、話を伺うと「病院を変えたい」「診察をしてほしい」などがご希望の場合があります。ここで“セカンドオピニオン”について説明します。セカンドオピニオンとは、第2の専門的意見のことで、治療法についてかかりつけ医以外の第三者の医師（その分野の専門的な知識および技術を有する）が提示する医療上の意見をいいます。新たな検査や診察は行わず、相談者のお話や主治医からの資料の範囲内で判断をくださるものです。

まずは、セカンドオピニオンを受ける前に、ご自身がかかりつけ医から納得いくまで説明を受けているか（十分に話し合っているか）十分に説明内容を理解しているか振り返りましょう。別の医師の意見を聞く前にかかりつけ医の説明（＝ファーストオピニオン）を十分に理解しておくことは、安心して納得のいく治療を受けるうえで大切です。

いざセカンドオピニオンを受けると決めた場合でも「悪い印象を与えてしまうのでは」「もう診てもらえないのでは」という不安から、かかりつけ医にセカンドオピニオンを受けたいと切り出すことを躊躇する相談者も少なくありません。そのような場合には率直に“迷いや気がかり、希望すること”を話すように後押ししています。

当がん相談支援センターでは、当院入院・通院中以外の方であっても、またがん・非がんに関わらず相談を受けています。相談者の言葉にはどのような思いが込められているのか丁寧にお話を伺い不安や悩みの理解に努めています。その関わりで大切にしていることは、相談者が納得して決める（治療を受ける）という納得感が得られることや勇気を出して相談してくださった方が、相談後に「辛い気持ちをわかってもらえた」「次に何をすればよいかわかった」と感じていただけるように支援しています。

がん相談支援センター
連絡先：0942-31-7903
受付時間：平日（月曜日～金曜日）
9時～16時30分
※久留米大学病院ホームページ
www.hosp.kurume-u.ac.jp
セカンドオピニオン外来



医療福祉相談のご案内 ～医療連携センターでどのようなことが相談できるの？ Q&A

医療連携センター 深川 千寿子

医療連携センターでは、患者さんやそのご家族が抱える様々な不安や問題等に対してソーシャルワーカー7名、退院調整看護師7名で対応しています。入院、転院、在宅療養についてのご相談や、治療や療養に関して不安がある場合など、あらゆる相談に対応しております。外来や病棟の医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ部門、事務など病院内の多くの職種はもちろん、地域の医療機関や福祉事業所、公的機関とも連携しておりますのでお気軽にご相談ください。

Q. 介護保険ってどんなサービスがあるの？利用するにはどうしたらいいか教えてください。

A. 訪問による介護や看護、通いのデイサービス、入浴介助など必要に応じて多くのサービスが利用できます。利用するには介護保険の申請が必要です。主治医の意見書と訪問調査により介護支援区分の認定を受けます。

Q. 主治医の先生に転院と説明されたけど病院は自分で探すのですか？

A. 転院先のご希望を担当者が確認し転院の調整をいたします。転院の際に自家用車での移動が難しい場合は、福祉タクシーや民間救急車の手配も行っています。

Q. 大学病院で治療していますが、通院が大変です。

A. お住まいの地域にかかりつけ医を紹介することもできます。

Q. 治療にはお金がかかります。何か補助制度はありますか？

A. その方が利用できる社会福祉制度や申請方法をソーシャルワーカーが説明いたします。

※場所：総合診療棟1階
入院手続き6番カウンター前
医療連携センター
「患者相談窓口」で受付しています

※受付時間：平日（月曜日～金曜日）
9時～16時30分

※連絡先：0942-31-7903
あらかじめ予約をいただくとスムーズです

※ご入院中の方は、病棟看護師にお声かけください。病室まで医療連携センター担当者が伺います。



Withコロナ ～コロナに負けないからだづくり～

管理栄養士 茅原 明日香

コロナによりおうち時間も増え、食生活の乱れを感じている方も多いのではないのでしょうか？ コロナを予防する上で普段から健康的な生活を送り、免疫力を高めておくことは大変重要です。では免疫力を高めるためにこういったことを意識すればよいのでしょうか？

免疫力を高めるためにはさまざまな栄養素をバランスよくとることが大切です。そのなかでも不足しがちなものに「たんぱく質と野菜」があります。たんぱく質は免疫細胞をつくる材料となり、野菜に含まれるビタミンやミネラルは免疫機能が正常に働くためのサポートをしてくれます。ではまずたんぱく質を十分に摂るためにはどうすればよいのでしょうか？

たんぱく質が最も不足しがちなのが朝食です。朝から肉や魚を食べることは時間や手間がかかることから難しく、パンやごはんなどの炭水化物のみの食事になりがちの方も多いのではないのでしょうか。しかしプラス一品付け加えるだけで朝から手軽にたんぱく質をとることができる食材もあります。



スーパーやコンビニでも手軽に購入することができ、容器ごとそのまま食卓に出すだけで食べることができるものも多いので普段の食事に付け加えてみてはどうでしょうか？ また一品だけではなく、いくつかの食品を組み合わせて摂ることにより効果的にたんぱく質を摂取することができます。

次に野菜です。厚生労働省の「健康日本21」では野菜の目標摂取量を350g以上と定めています。これだけの量の野菜を毎日とることは難しいと思いますが、調理方法などの工夫をすれば野菜の摂取量は簡単に増やすことができます。

野菜を上手にとるポイント

- ・茹でる、蒸す、炒めるなどの加熱をする
加熱することでかさを減らすことができ、食感も変わるため飽きずに食べることができます。
- ・常備菜を作る
いつでも手軽に野菜を食べられる環境を作っておくことで毎日野菜をとる習慣をつけやすくなります。
- ・市販の野菜を使った食品や冷凍野菜をうまく利用する
毎日継続して野菜をとるためにも手間がかかる副菜などは市販のお惣菜なども利用してみましょう。また長期保存の可能な冷凍野菜を常備しておくことでいつでも簡単に野菜をとることができます。
手洗いや消毒など体の外だけではなく、いままでの自分の食生活を見直すことで体の中からも感染予防をしていきましょう！

「診療費後払いサービス」・「診療待ち番号確認サービス」のご案内 ～スマホアプリによる患者さんの利便性向上を目指します～

久留米大学病院では、患者さんの利便性向上を目的に、スマートフォンアプリを活用した「診療費後払いサービス」と「診療待ち番号確認サービス」の運用を5月から開始しています。

「診療費後払い」は、診察前に患者さんが後払い利用申請を行うことで、診察終了後、会計計算を待たずにそのまま帰宅することが可能となるサービスです。支払いは、アプリのクレジットカード決済となりますが、領収書や診療明細書はアプリ内で確認できる仕組みとなっているため、領収書等を紛失する恐れもなくなります。

「診療待ち番号確認」は、受付番号の診察待ち状況をアプリ内で確認できるサービスです。患者さんは、診察までの待ち時間を有効に活用することができるとともに、待合スペース等の混雑緩和にも繋がります。久留米大学病院では、これらのサービスを含め、引き続き患者さんの利便性向上に努めてまいります。